

## 令和3年度第2回 鹿児島市行政改革推進委員会 概要録

日時：令和3年8月3日（火）10:00～11:25

場所：市役所本館2階特別会議室

|    | 委員意見、事務局回答                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | ○ これまでの経過やポイントなどをまとめると、もう少し分かりやすくなるのではないかな。                                                                                                                                                                                                                      |
| 2  | ○ 「2(1)人口減少・少子高齢化の進行により厳しさを増す財政状況」に「持続可能な都市経営を進める」という表現があるが、地方自治体といえども、企業と一緒に、健全財政で運営されていくものと言うような決意の表れということで、敢えて「経営」という言葉を使っているのか。<br>→ 厳しい財政状況であることから、経営的な感覚も必要という趣旨も踏まえ、そういった言葉を使っている。                                                                        |
| 3  | ○ 「2(1)人口減少・少子高齢化の進行により厳しさを増す財政状況」の一段落目の最後にある「深刻な影響を与えることが懸念されています」について、「深刻な影響を与える対象」は財政状況だと想像できるが、文章中には文言が出てきていないので、明記した方が読みやすいと思う。                                                                                                                             |
| 4  | ○ 「2(2)ICTの進展」の中に、「市民の利便性の向上や自治体業務の効率化を図ることが求められている」とあるが、ICTが社会に実装されていく中で、行政サービスは何を実現するのか、何に繋がるのか、具体的に分かるような表現にできないか。                                                                                                                                            |
| 5  | ○ 行財政改革自体が目的ではないはずなので、何のために行財政改革をやるのかということについての表現が必要ではないか。                                                                                                                                                                                                       |
| 6  | ○ 「3(1)目指す方向性」の「新しい技術・発想」という部分について、多様な関係者との対話という観点も必要だと思うが、イメージがどうなっているのか、深めて欲しい。                                                                                                                                                                                |
| 7  | ○ 「持続可能な」という表現は、県の新たな行財政運営の指針でも使われていて、このような表現は多く見るが、どういう意味でここで使うのか、整理しておいた方が良い。                                                                                                                                                                                  |
| 8  | ○ 「3(2)推進体制」の「原則数値目標を設定」という表現は、「原則として、数値目標を設定」の方が良い。                                                                                                                                                                                                             |
| 9  | ○ 「推進体制」は行財政改革を進めていく中で、いかに実効性のある形でやれるかどうか肝になると思う。大綱に書き込むかは別として、議論を深めていただきたい点が大きく2つある。一つは、成果の測り方。難しいところはあると思うが、数値目標の設定においては、効率性という観点からも、前向きな試行錯誤をして欲しい。もう一つは成果の定義。事業をどれだけ実施したかではなく、最終的な政策目標がどれだけ実現したかということ意識して欲しい。                                                |
| 10 | ○ 「4(1)市政情報の公開・提供の推進」に「多様化する市民のニーズや行動等を踏まえ」とある。ニーズや行動等を捉えているから、それを踏まえることができると思うが、どのような方法でニーズや行動等を捉えているのか。<br>→ 市民からのご意見や問い合わせ、パブリックコメントなどにより把握している。また、この部分は、例えばスマホが使える方使えない方、文字媒体の方が好まれる方など、そういった多様なニーズを踏まえた広報を行うという意味を含んでいるものである。                               |
| 11 | ○ 「4(1)市政情報の公開・提供の推進」に「効率的な公文書管理」と書いてある一方で、参考資料2では、推進項目例として「公文書の適切な保存・管理」とある。国の方で問題になっているのは「適切な保存・管理」だと思うが、ここの関係はどうなっているのか。<br>→ 公文書については、適正な運用を図っていくというのがまず第1にあるかと思う。「効率化」というのは色々な意味を含んでいるが、例えば市民からの問い合わせにすぐに対応できるよう電子化で保存するなど、そういった手段も含めた意味で「効率的な」という言葉を使っている。 |
| 12 | ○ 「4(1)②きめ細やかな広報機能の充実」において、市長の発信はなくてもいいのか。<br>→ 大綱に記載はしていないが、適宜タイミングを見て、市長から直接情報発信ないしは指示といったことが行われる体制はできている。                                                                                                                                                     |
| 13 | ○ 単に情報をどんどん流せばいいということではなくて、正確性の担保やその説明など、フェイクニュースといった情報社会のデメリットをカバーしていくようなことが、今後行政の新しい役割として加わってくるのではないかと考えている。                                                                                                                                                   |

## 令和3年度第2回 鹿児島市行政改革推進委員会 概要録

日時：令和3年8月3日（火）10:00～11:25

場所：市役所本館2階特別会議室

|    | 委員意見、事務局回答                                                                                                                                                                                                                        |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 14 | ○ 市民の側が積極的に行政にも関心を持って、自発的に一人一人変わっていくという姿勢があれば、自浄作用・循環作用が回っていくというイメージがある。市民の自発的な行動の促進について、具体的に文言には入れられなくても、何かアンケートを取る際でも、市民の当事者意識、能動的な姿勢が、アンケートに答える中で育まれるようなものが、少なくとも入れればいいと思う。                                                    |
| 15 | ○ データに基づく政策立案（EBPM）の推進と、PDCAやKPIとの関わり合いについて教えて欲しい。<br>→ EBPMは、データを使って、成果指標等を客観的に示して政策立案をしていくという一つの手法として捉えており、PDCAサイクルをより強力なものにしていくようなイメージをしていただければと思う。                                                                            |
| 16 | ○ 「4(2)①質の高い効率的な行政運営」の最後の部分は、現大綱と同様の内容である一方、文末が「努めます」から「行います」となっている。これは、さらに民間活用を進めるということで、意識的に変えたのか。<br>→ 大綱全体として、基本的には市が主体的に進めていくような表現としている中で、ここだけ「努めます」とすると、逆に後退感が出てしまうので、全体的なバランスを見てこのような表現としたところであり、現大綱から特に考え方が変わったというわけではない。 |
| 17 | ○ 「4(2)①質の高い効率的な行政運営」に「中長期的な視点に立った選択と集中による適正な定員管理を行います」とある。選択と集中は、間違えると組織自体が終わってしまう危険性もあるので、「適切な選択と集中」など、「適切な」といった文言を入れた方が良いのではないかと。                                                                                              |
| 18 | ○ 「4(2)③健全財政の維持」にある「徹底した事務事業の見直し」は、基本的なことで大切な部分だと思うが、部署によって取組に差があるような気がする。大綱に記載するのは難しいかも知れないが、成果が上がった部分を見直して、全ての部署で共有化、統一化していくということについても考えていただければと思う。                                                                             |
| 19 | ○ 「3(1)目指す方向性」にある「行政サービスの推進」という文言について、「行政サービス」というと、行政が一方的に頑張るような印象がある。かといって代わりの文言は思いついていないが、市民が当事者意識を持つような、「これだけ大変なので皆さんも分かってください」といったようなメッセージ性がもう少しあると良いのではないかと。                                                                 |
| 20 | ○ 「4(1)市政情報の公開・提供の推進」について、公文書や行政が持つものというのは、次世代の人にも共有するという視点が大事だと思うので、「効率的な」ということではなく「適切な」といった言葉の方が良いと思う。                                                                                                                          |
| 21 | ○ 「4(3)人材育成の推進」について、具体的な推進方策全てに「能力」という言葉が出てきていて、そこも大切な部分だと思うが、働き方改革やメンタルヘルスといった視点が、人材育成の部分でももう少し重要なものだと捉えられると良いと感じる。                                                                                                              |
| 22 | ○ 市民ニーズの多様化、地域課題の多様化など、多様化という言葉が多く使われているが、多様化するニーズに对应していくためには、市役所職員も多様性が必要となってくるので、「4(3)人材育成の推進」において、多様性という部分も大切にする視点があると良いと思う。                                                                                                   |
| 23 | ○ 働き方改革の視点、ジェンダー平等の視点、ディーセント・ワーク、ワークライフバランスといったところが含まれてないと、職員が高い志気を持って能力を十分発揮できる体制にはなっていないと思う。                                                                                                                                    |
| 24 | ○ 「4(3)①職場における職務能力の向上」の「マネジメント能力の強化」に入っているのかも知れないが、幹部の方には、広い視野で時代を見ていく、そういった視点も必要だと思う。                                                                                                                                            |
| 25 | ○ 「4(3)③人を育てる人事管理の推進」の「効果的な人事評価制度」については、公正で効果的なものになっていくようにお願いしたい。                                                                                                                                                                 |

## 令和３年度第２回 鹿児島市行政改革推進委員会 概要録

日時：令和３年８月３日（火）10:00～11:25

場所：市役所本館２階特別会議室

|    | 委員意見、事務局回答                                                                                                                                                                                                                                 |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 26 | <p>○ 「4(3)人材育成の推進」には、人材の確保という観点は含まれているのか。また、人口減少下で採用活動が難しくなっている中で、官民間問わず、柔軟な採用方法やキャリアプランの複線化などが考えられているので、その辺の観点を確認したい。</p> <p>→ 人材確保についても、非常に重要だと考えているため、採用にあたっては、年齢制限を引き上げたり社会人採用枠を設け、また、面接もかなり重視し、能力をしっかりと見極めるような形で優秀な人材の確保に取り組んでいる。</p> |
| 27 | <p>○ 能力というよりは、これからは個性、柔軟に対応できる人材の確保というのがとても大事になってくると思っている。多彩な人材の登用をどのような形で行うのか、今後見ていきたい。</p>                                                                                                                                               |